

日本精化が今年、創立100周年を迎えた。樟脳(しょうのう) 関連企業の合併で日本樟脳として誕生した同社は、神戸を本拠に一時は売上高日本一の総合商社だった鈴木商店の流れをくんでいる。1971年に現社名として以降、ファイナケミカルメーカーとして存在感を高めている。矢野進社長に話を聞いた。

100周年を迎えました。

「このころでは日本樟脳の社名を知らない方も多いように思う。当社は1918(大正7)年、メーカー7社・販売会社1社が政府主導で統合され日本樟脳として発足した。セルロイド原料とし

日本精化が創立100周年

矢野 進 社長に聞く

常に変革し続け社会貢献

世界的に需要が高まるなか、樟脳は外貨獲得のため政府にとっても貴重な製品だったことが背景にある。62年に原料の専売制が廃止されるまで、日本の樟脳を独占的に扱う会社だった」

「専売制廃止の数年前から油脂事業へと転換し国内で初めて脂肪酸の精



製を手がけ、さらに誘導品へと業容を広げた。油脂事業へ舵を切り、ファイナケミカルメーカーへの道を切り拓いた当時の経営陣をリスペクトすると同時に常に変革し続けることの重要性を当社の歴史から感じている」

「主力の化粧品事業への参入は60年ほど前で、ベースオイルに用いられる汎用エステルを手がけた。近年は高付加価値品へのシフトを進めるとともにグローバル展開に力を注いでいる。95年に吸収した吉川製油が製造す

るウールグリース由来のラノリンは、融点が体温に近く使用感が優れ、化粧品などの基材として安定した収益を上げています」

「精密化学品事業では医薬用リン脂質に力を注いでいる。医薬用リン脂質は当社独自基材で、ドラッグデリバリーシステム(DDS)のキャリアーであるリポソームを容易に構築できる基材として市場から高い信頼を得ている」

「好調に推移しており通期予想は上回る可以看到」

「前者は、中国が世界の工場といわれた時期に設立した拠点。ただ現在では中国が世界最大の消費地となっており、中国生産品は中国国内向け供給が中心となっている。台湾法人は、プラスチックレンズやバイザーに用いられる表面処理剤の販

売会社。近年は防曇機能の製品が伸びている。防汚コート、自己修復機能のほか、フレキシブルコーティング材料も伸びを見込んでいる」

「経営理念にも掲げるように、化学を通じて、人々の美と健康、豊かな生活の実現することで社会にとって必要不可欠な会社を目指す。そのため強化が重要。化粧品事業で言えば、顧客である化粧品メーカーのニーズだけでなく消費者ニーズ、マーケティング力の強化が重要。化粧品事業で言えば、顧客である化粧品メーカーのニーズ、マーケティング力をい

「先人へのリスペクトは必要だが、100周年を迎えたこと自体に値打ちはない。過去の経験が将来も役立つとは限らないわけで、常に変革し続けることが重要だ」

「先人へのリスペクトは必要だが、100周年を迎えたこと自体に値打ちはない。過去の経験が将来も役立つとは限らないわけで、常に変革し続けることが重要だ」

「先人へのリスペクトは必要だが、100周年を迎えたこと自体に値打ちはない。過去の経験が将来も役立つとは限らないわけで、常に変革し続けることが重要だ」

「先人へのリスペクトは必要だが、100周年を迎えたこと自体に値打ちはない。過去の経験が将来も役立つとは限らないわけで、常に変革し続けることが重要だ」

「先人へのリスペクトは必要だが、100周年を迎えたこと自体に値打ちはない。過去の経験が将来も役立つとは限らないわけで、常に変革し続けることが重要だ」

「先人へのリスペクトは必要だが、100周年を迎えたこと自体に値打ちはない。過去の経験が将来も役立つとは限らないわけで、常に変革し続けることが重要だ」